



●学部学生 21,000人 ●大学院生 6,700人 ●教職員 3,000人
ホームページ <http://www.ncl.ac.uk/>

交流協定締結年月日：2020年6月5日 主管学部：医学部



<https://www.ncl.ac.uk/who-we-are/facilities/>より抜粋



<https://www.ncl.ac.uk/study/campus/#library/>より抜粋

国際交流の特色

ニューカッスル大学は、1834年に設立された医学・薬学大学から発展し、現在は総合研究大学として北部イングランドを代表する有名大学となっている。同大学はイギリスの大学でトップ20位にランキングされており、特にイギリス大学ランキング誌The Virgin Alternative Guideにおいては、学生の満足度が非常に高いと評価され、全英トップ10にランクインしている。またその他大学評価機関には「英国で最もフレンドリーな大学」(Friends Reunited Reunion)「英国で最も成功した大学」(The Guardian University Guide)など高い評価を得ている総合研究大学である。医学部のカリキュラムも大変充実しており、1992年から学部学生の派遣を続けているが、医学部学生にも、ますます人気のプログラムになっている。

交流実績（令和4年度～令和6年度）

年度	R4	R5	R6
受入・派遣			
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	3	4	4
研究者・職員の受入	0	1	0
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）	0	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	0	0	0



<https://www.ncl.ac.uk/study/campus/#library/>より抜粋

教員からの声

医学科では、ニューカッスル大学側のコーディネーターである Matthias Schmid先生のアレンジのもと、医学実習Ⅱの一環として毎年4～5名の学生を4月～6月の6週間、臨床研修に派遣しています。現地では通常2週間×3科をローテーションしますが、患者さんの診療に加えて、英国の医師や看護師、同じく臨床実習に参加している現地学生との交流によって、かけがえのない経験を積むことができます。特に令和2年6月には香川大学医学部とニューカッスル大学医学部間によりやく部局間交流協定が締結されました。令和5年度は、Schmid先生に再度来日いただき、講義や実技指導を行っていただきました。また、今年度は4名の学生を無事にニューカッスル大学に派遣することができました。こうした機会を活かして交流の深化に関する論議を行っており、今後も継続的な交流の発展が見込める状況です。

医学部国際交流委員会委員・教授 和田健司

学生からの声

私は2025年4月14日から、Royal Victoria Infirmaryおよび Freeman Hospitalで感染症科と脳卒中科の実習を計6週間行いました。問診や診察、カンファレンス、多職種会議への参加、受け持ち患者についての英語での発表を通じて臨床推論を深めるとともに、患者中心の医療の在り方を学ぶ機会を得ました。

患者の生活や価値観は様ではないという前提のもと治療方針を共に考える姿勢があり、多文化社会である英国の医療の在り方を肌で感じました。一方で、国外に身を置いたことで日本の医療を相対的に見つめ直す機会にもなりました。その中で、異なる制度や文化であっても医療の本質は人と人との関わりにある共通項にも気付かされました。さらに、現地の先生方や学生との交流を通じて、お互いの医療や文化、考え方を伝え合えたことは大きな財産です。

両国で得た経験を糧に、今後も研鑽を積みたく思います。言語の壁はありますが、それを上回る学びがあります。もし参加を迷っている方がいれば、ぜひ勇気を持って一歩を踏み出してみてください。

令和7年度医学科6年 石井崇晶